

第1回運営推進委員会 議事録



■日時： 2012年10月27日（土）10時～17時

■場所： 創価大学 本部棟10階 第4会議室

■出席： 山梨大学 佐藤 真久 (工学部基礎教育センター センター長)
奥原 利昌 (総合情報戦略機構 係長)
滝口 晴生 (教育人間科学部言語教育コース 教授)
小俣 昌樹 (工学部コンピュータ理工学科 准教授)
吉川 雅修 (工学部コンピュータ理工学科 助教)
伊藤 亜希子 (大学教育研究開発センター)
愛媛大学 仲道 雅輝 (先端研究・学術推進機構 総合情報メディアセンター 助教)
山崎 哲司 (教育・学生支援機構教職総合センター 教授)
庭崎 隆 (教育・学生支援機構教職総合センター 准教授)
瀧本 笑子 (総合情報メディアセンター 事務課 SL)
佐賀大学 穂屋下 茂 (全学教育機構 教授)
藤井 俊子 (全学教育機構 特任准教授)
古賀 崇朗 (教務課 eラーニングスタジオ・教務補佐員)
北星学園大学 中嶋 輝明 (総合情報センター長、文学部・教授)
金子 大輔 (経済学部 准教授)
片岡 徹 (文学部 専任講師)
佐々木 薫 (学生支援課 教務担当課長)
高野 正明 (情報システム課 課長)
創価大学 望月 雅光 (教育・学習活動支援センター 副センター長 経営学部 教授)
山下 由美子 (学士課程機構 講師)
畑 由美子 (学士課程機構 助教)
斉藤 幸一 (学士課程機構 助教)
飛田 昌彦 (大学事務局次長・学事部長)
愛知大学 湯川 治敏 (地域政策学部 准教授)
早川 勇 (地域政策学部 教授)

	中崎 温子	(地域政策学部 教授)	
	藤田 大介	(豊橋教務課)	
桜の聖母短期大学	加藤 竜哉	(キャリア教養学科 教授 進路部長)	
千歳科学技術大学	小松川 浩	(グローバルシステムデザイン学科 教授)	
	石田 雪也	(グローバルシステムデザイン学科 講師)	
	山川 広人	(情報・メディア課 技師)	
	大西 哲也	(教育連携推進課 課長)	
(株) リアセック	近藤 賢	(取締役COO)	
	笠井 恵美	(本取組・事務局業務支援担当)	(34名)

■議事内容:

1. 事務局報告 (千歳科学技術大学 小松川 浩)



① 平成 24 年度経費予算の考え方 (確認)

来年度の到達度テスト実施のため、内製化を基本として予算対応することを確認した。具体的には、各大学に基準額を配分、一部大学での教材作成整備費を別途増額、その他（システム改変・調整、外部専門家委嘱、事務局経費、人間力の評価・自己診断テスト実施等）計 6,600 万円（補助金上限額）である。

② 共通基盤システムの整備状況

本年度の実施目標は、

- ・ 希望大学による入学前教育のクラウド上での実施
- ・ 到達度テスト（入学前教育テスト、入学後のプレースメントテスト、学習観自己診断テスト）のクラウドへのアップ
- ・ 教材（候補）の大学間の共有開始 である。

現時点で、

- ・ CIST-Solomon を 8 大学間のクラウド上にアップした（各大学 1 教員アカウント。1 教員アカウントで学生アカウントを自由に作成可。他大学からは読み取れない。個人情報の管理は

各大学で行う。学生情報とのマッピングはシステム上では行わないようにする)。入学前の学生IDと入学後のIDは紐付けできるようにする予定。利用方法は、千歳科学技術大学情報・メディア課eラーニング窓口(山川・森田・佐藤・岩城) el-support@guppy.chitose.ac.jp まで。

- ・ 入学前教育テストとしては、愛知大学作成の英語・日本語・数学を CIST-Solomon に用意済みである。希望大学は自由に使用可。
- ・ 入学後プレースメントテストと学習観自己診断テストは、今後、教科別・到達度WGで議論する。平成 25 年 4 月開始予定であるので、できれば 2 月末までに原稿を作成したい。原稿のウェブ化作業は千歳科学技術大学にて行い、基本的にはマークシート対応を意識する(数値入力または選択肢形式、フォーマットは後日指定)。テスト実施後、事務局(または委託業者)が統計処理のうえ、各大学には紙ベースで診断票を配布予定である。
- ・ 入学後到達度テスト(1年次修了時点を目安に行う)は、今後作成予定である。
- ・ 学習教材の候補は、Moodle でショーケースを実施し、共有する(あくまでショーケースであるため、学習を行う際は各大学で Moodle を立ち上げ学習者のアカウント管理を行ったうえで実施する。教材は事務局経由で配布)。今後の取りまとめは、佐賀大学で担当する。試行的に、Moodle 上でも到達度テストの一部問題開示を行う予定である。

③ 日本リメディアル教育学会へのアンケート調査について

本事業においては、ステークホルダ(日本リメディアル教育学会、大学eラーニング協議会、日本情報科教育学会)のニーズを把握することが重要である(文部科学省からも指示)。本事業の成果をもとに、ウェブ上で学習できる教材を公開することについて、日本リメディアル教育学会にニーズのヒヤリングを行うアンケート調査案(資料 27~31p)を事務局で作成した。日本リメディアル教育学会会長 穂屋下先生をはじめ、皆様のご意見をお聞きしながら調査を行い、来年度以降、学習教材を作成していく参考としたい。

④ ステークホルダ等への外部協力者(案:「大学間連携共同教育推進事業・共同研究者」)への委嘱について

個人の外部協力者(共同研究者)への委嘱を考えている。具体的には、学習観やリメディアルに関するご専門として、日本リメディアル教育学会 田中先生(日本工業大学)、情報に関するご専門として、日本情報科教育学会 西野先生(九州工業大学)、西端先生(畿央大学)、布施先生(北海道大学)にお願いできればと考えている(この事務局説明に、参加者からの質問・異議はなし)。

⑤ e-Learning Awards 内での公開フォーラムの開催

本事業の取組を随時公開していく活動の一環として、11/30(金)14:50~15:40 秋葉原 UDX において 8 大学の取組を発表予定。発表担当希望が特に参加校から出なかったため、今回は最初の発表であることもあり、代表校(小松川)が行うこととする。

2. 各 WG(Working Group)からの報告

① 到達度 WG(山梨大学)



入学後プレースメントテストについて、本日、小松川先生がお話しになった部分はそのとおりである。それ以外の項目について以下、報告を行う。

各科目の今後の検討項目

- ・数学では、問題自体をレベル別にする。
- ・複数の科目を行うにあたり、テスト時間を何分にするか。
- ・問題は4～5年サイクルで出すか（卒業サイクルに合わせ）、ランダムに出すか。

今までの会合で出された意見

- ・主旨は、「教育内容の質の保証と、教育の質向上。如何なる社会でも通じる人材の輩出」である。
- ・キーワードは、学士力の育成とそのための教育の共通基盤の形成である。学士力を題解決能力とコミュニケーション能力と捉える。共通基盤形成は日本語、英語、数学、情報等の教材を中心に行う。
- ・初年次教育のキャリア形成への貢献を意識し、図書館の使い方でも終わらせてしまっている初年次教育から、教育基盤形成を行うべく、教材を作成し、各大学の特色ある取組で質の向上を図り、教育方法の大学間における共有化も行う。また、自主学習の確保、学力の定点観測、アセスメントテストのような評価事項も含んだ、質保証の可視化にも取り組む。

到達度の基準

- ・数学関係の到達基準… 理科系は工学系数学統一試験程度。全国工学系数学統一試験の利用も考えられる（マークシート方式なのでウェブにのせやすい）。
- ・統計… 統計学会の統計検定4級から2級レベル。統計検定は、国際資格でもあるので、国際を視野に入れる。統計教材は、伝統的なものはそのままに、主流となってきているデータ解析をメインとした教材を作成する。
- ・英語… TOEIC 400点程度。どのような基準がよいか、WGで明確にしていく。
- ・情報… 要検討。
- ・日本語… 語彙や諺などの知識も入れるが、基本的には学生に一番欠けている「論理的理解力」を見るテストとする。
- ・学習観… 千歳科学技術大学の教材を利用。到達度テストは問診票形式とする。

テストの作成形式とスケジュール

- ・回答方式は直接数字入力または選択肢方式とする。

- ・遅くとも来年2月下旬に作り出すために、2月中旬に問題を提供する。ある程度できあがっている科目以外は、忙しい作業になる。
- ・到達度テストは、24年度は準備期間で、25年度末の完成をめざす。ただし、科目ごとに完成スケジュールは変わってくる。

大学へのデータ提供

- ・学習シートにすべてのデータを入れ、エクセルファイルとして提供する。
- ・大学間の比較にならないようなデータとして提供する。

実施上の問題

- ・27年度の新課程をにらみ、長く使うということであれば、新課程に対応した形がよいと思われる。これは大きな問題である。
- ・クラス分けに使う場合、ウェブで行うと教務上の時間的余裕がないため、先にテストを行い、その結果をウェブ用として提出するというような順番が逆になることもあると考えられる。また一斉に行う必要があるが、PC教室の不足も懸念される。
- ・大学ごとに問題を選択できる形でないと困ることがおきるのではないか。
- ・各大学の学生の学籍番号とクラウド上のIDとの対応がとれるか。
- ・クラウド上のサーバーが一斉アクセスに耐えられるか。
- ・同じ問題を使う場合、問題が洩れないような対応が必要である。
- ・紙で実施した場合、成績をどのように知らせ、統計を取ることができるようにするか。

② 共通基盤教育 WG(愛媛大学)



- ・2013年3月もしくは4月の入学後到達度テスト実施に向けて、到達度WGにより作成された問題を活用する。問題は、レベルに合わせて各大学で選択できるようにする。最低1大学以上は実施を行い、実施範囲は実施大学の事情に合わせる。
- ・初年次教育科目のeラーニングコンテンツは、各大学の特色ある取組から素材出しをしながら検討していきたい。2013年度にeラーニングコンテンツ化、コース化を進めていく。

③ 学習教材 WG(佐賀大学)



- Moodle について、配布資料で、基本的な内容、パスワードを記載した。
- Moodle では、事務的共有サイト、教材のショーケース、教材開発の3つのカテゴリを作る予定である。昼食時、デモを用いて、説明を行った。
- Moodle は登録しないと見られないので、なるべく早くアクセスして登録していただきたい。

(事務局より) 学習教材の著作権は、各大学や各大学で教材を作られる先生に帰属することを原則としたい(8大学で原著作を持つということはない)。費用も各大学の分担金で行い、各大学で教材も作れるように講習などにもご参加いただき進めていただければと思う。ただ、始めは大変なので佐賀大学や千歳科学技術大学で協力をして行き、その費用は各大学に協力をいただける範囲で行いたい。共通基盤に教材を出すときには、利用許諾、できれば改変許諾を8大学に対して出させていただくかたちで対応していただければ、良い教材を作っていくことに繋がるのでご協力をいただければ、というのが事務局案である。

④ ポートフォリオ WG(創価大学)



明日 10/28、勉強会を予定している。運用ノウハウを共有しないと何もできないということで、各大学の事例を共有していく取組を行うのが今年度の目標である。共有は、Moodle などのサイトに、様々なものを集めるかたちで行う。それを今年度の業務としたい。

⑤ 特色ある教育 WG(北星学園大学)



- ・各大学における、学士力の育成に資する課題解決型・体験型の教育活動のノウハウを共有していきたい。また、相互に学生が参加しあえる取組があれば、本事業で取り上げ、活動の評価も行っていきたい。
- ・今年度は、そのための調査の位置づけである。配布資料にあるのが素案、調査項目である。ただし、今回は、特定の専門職養成に繋がる活動や学科所属に強く紐付けられる活動、およびまったく教職員が関与しない活動は調査対象から除いたほうがよいと考えている。以上にご指摘があればいただきたい。
- ・今年度調査をし、取りまとめたうえ、複数の大学で取り組んでいけるものがあれば、それを柱に来年度進むのではないかとイメージしている。

⑥ 学習観 WG(桜の聖母短期大学)



- ・学習観（申請時）、または学修観（本日の資料）の字については、この後のWGで検討する。
- ・24年度は、何か叩き台をもとに、8大学の土台を作ることとしたい。日本リメディアル教育学会からは、配布資料「第1回運営推進委員会」の23～26Pにある「【1】まず、自分のことを知しましょう」という資料(自己診断のテスト、事務局のほうで個票にして結果を出す対応が可能)をいただいている。ウェブ上で実施できるものであればよいかと考える。実施時期は別途議論したい。

⑦ シラバス WG (愛知大学)



- ・シラバスは、共通基盤 WG および到達度 WG と連携をしながら作成する。最終的に、学生にシラバスを提示し、自分に足りない箇所、つまずきの気づきを学生に促し、その箇所の学習につなげたい。その意味で、通常のシラバスの考え方とは異なる。
- ・内容としては4教科（数学、英語、日本語、情報）であるが、それ以外に初年次教育に関するものもいれてもよいかと考えている。今年度は、初年次教育に関するものでシラバスに載せていけるものの検討を行いたい。

3. 科目別打ち合わせの報告

① 日本語 (愛知大学 湯川先生 ご報告)



- 科目名としては「日本語」に統一（「国語」は使用せず）。
- 入学後のプレースメントテスト…
 - ・2種類準備する（文系向け、短大理系向け）。愛知大学で試験的に作っているものをもとに応用する。
 - ・内容は7分野、各10問ずつぐらい、合計で100問。30分で実施可能となるように作成する。
 - ・7分野は、「表記・文法・敬語」「漢字読み」「漢字書き」「語義」「四字熟語」「成句・ことわざ」「短文読解」である。
 - ・ただし、試行してみたところ、高得点になってしまう傾向が出た（選択肢が少ないと消去法で正答率があがってしまう等）。今後、難易度をあげるか、選択肢をふやす変更を検討したい。

- ・次回、原案を示せるように準備。愛知大学で原案を作り、愛媛大学、創価大学が確認、修正等行う。

●入学後到達度テスト…

- ・かなり話をした。プレースメントテストと到達度テストの関係であるが、後者が前者の単純な延長線上でなくてもよいのではないかとの意見が出た。
- ・到達度テストは、プレースメントテストの7分野に日本語リテラシー（論理、解釈、説明、大意把握、評価力、表現力）を加えて行うのはどうか。これについては、愛媛大学の秋山先生が、愛媛大学全体の科目として、eラーニング教材の整備を行うなかで日本語リテラシーの観点にも取り組まれている。今後、北星学園大学の先生にもご協力をいただきつつ検討していきたい。

② 英語（佐賀大学 穂屋下先生 ご報告）

●話し合い参加校… 山梨大学、佐賀大学、創価大学、愛知大学

●入学後のプレースメントテスト…

- ・英語は各大学独自の行い方があって、統一はなかなか難しい。
- ・まず、愛知大学の早川先生が作っているものを、希望があれば使っていきたい。ただ、これは、愛知大学で複数年にわたって使うということでウェブには載せられないものであるもので、今後は類似のものをWGで複数作っていくことで進めようと考えている。
- ・リメディアル学習教材は、佐賀大学、千歳科学技術大学、愛知大学（まだeラーニング化していない）がもっており、山梨大学にもプレースメントテストがある。可能であれば、それらをもとにeラーニングの学習教材を作っていきたい。他の大学でも、できれば英語に関しては各大学から1名を出していただき、今後はウェブ会議を実施し、結果をMoodleにのせていくよう進めたいと考えている。

●入学後到達度テスト…

- ・英語の目標をどこにおくかが非常に難しい。TOEICの点数をあげればよいというものではなく、英語教育の先生によって目標はみな異なる。
- ・次回までには、少なくとも教材を調べたい。英語だけではなく、システム等の体制も含めて、何を使われているかを調べていきたい。

③ 数学（山梨大学 佐藤先生 ご報告）

●話し合い参加校… 愛知大学・愛媛大学・創価大学・山梨大学

●入学後のプレースメントテスト…

- ・CIST-Solomon に載っている愛知大学のテストを今年は利用していくこととし、次回、12月までに検討する。積分等が入ったヴァージョンなので、25年度以降は、ほかの種類が必要であれば、各大学のご要望をお聞きして用意していきたい。
- ・30～45分で行えるもので、ウェブ（今回はCIST-Solomon）に載せられるかたちの問題を作る。
- ・コアの問題として高1レベルの問題を作る。コアの問題に、文系用は中学3年くらいの問題を、理系用は高2レベル（Bレベル）と高3レベル（Cレベル）を加え、テストは3段階となる。全体比較はコアの部分で行う。
- ・診断シートについては、項目ごとに出題範囲を明記し、できていない部分の項目の明確化を行う。大

学ごとに独自問題を作りたい場合も、必ず項目と問題が対応し、全体で状況がわかるようにしていく。

- ウェブテスト形式については、すべての大学で行うのは困難であるので、一部は紙で行うこともあるが、出題項目は揃えていきたい。
- 成績報告の方法については、どうすれば簡単になるか、システム側と相談したい。
- 平成 27 年度からの新課程への対応については、習っていようといまいとすべての項目で出題する。利用する大学の方で項目の取捨選択をしてもらい、運用上でデータの解釈をしてもらえばよいと考え、出題はすべての部分を出していく。
- 12 月には、3 段階のテスト原案を示したい。今後は、19 名の協力してくださる先生方からテスト問題を集めまとめるという操作をして、教材+到達度テストに備えていきたい。

●入学後到達度テスト…

- 統計は 2 年か 3 年で、線形代数と微積は 1 年で学んでいるので、到達度テストの対象学年を分けたほうがよいのではないかと。もちろん 1 年で実施しているところは、予定どおり 1 年次の到達度テストとして実施しても良い。
- 統計検定については、4・3・2 級とあるので、選択して順次受けることも可能である。
- 出題形式はランダムで出題されるのがよいのでは。ただ、問題数が多く必要なので、1 年で 2 問ずつぐらい作成し、最終的には 5 年かけて 1 項目で 10 問をつくるという作り込みを試みようということになった。
- 工学系には、ウェブテストに合う工学系数学統一試験があるので、工学部はそれを利用し、ウェブテストは、それに到達しなかった場合のケアというかたちで、2 段階で利用することも考えられる。
- 数学の場合は事前学習が重要であるため、事前学習の到達度をみるというテストになる。その場合の未達成者への対応として、未達成者への教材を用意する必要がある。山梨大学にいくつか教材があるので、ウェブ化でケアできるかたちとしていきたい。

④ 情報（北星学園大学 金子先生 ご報告）

●話し合い参加校… 山梨大学、千歳科学技術大学、創価大学、北星学園大学

●入学後のプレースメントテスト…

- 北星学園大学で使っているものをもとに作ることとなった。これは、教育システム情報学会で 2007 年に作成されたプレースメントテストひな形を改良したものである。
- 現在のテストは、情報 ABC の 3 分野からまんべんなく出されている。平成 27 年度の新課程では「社会と情報」「情報の科学」の 2 つに情報が統合される予定である。ただし、中身はほとんど変わらないので、現在のテストをそのまま使うことができる。
- 12 月までに、北星学園で使っているもののリバイスと、今 30 問しかないのを、40 問にするために 10 問を考えてくる。現在いろいろある教材については、それぞれがどのような観点に位置づけられるかをまとめる。

●入学後到達度テスト…

- 知識をみるのは簡単だが、エクセルを使えるかといったスキルをどう評価するかが難しい。解決策として、ひとつは、マイクロソフトオフィススペシャリスト試験のようにシミュレーション環境を用意して行う、もうひとつは自己診断で自分がどれくらいできるか答えてもらうという方法が考えられる。前者は非現実的であり、どの大学でも使えるものという観点で後者がよいのではないかと。

- ・選択肢に、あえて「わからない」を入れたい（プレースメントテストも同様）。あてずっぽうで当てられるのを防ぎ、情報の試験だと本当にわからないときに「わからない」を気軽に選択してくれると考えられるからである。

⑤ 学習観（桜の聖母短期大学 加藤先生 ご報告）

- 話し合い参加校… 佐賀大学・愛媛大学・北星学園大学・愛知大学・創価大学・桜の聖母短期大学・リアセック
- そもそも、学習観をはかって、どうすればいいの？というところから議論が始まった。それでは進まないの、WGでは、本人のいいところ、売りを伸ばすような仕組みをぜひ作りたいね、という話になった。こういうことを行ったら学習観の向上がみられた、プラスのストロークが出るようになった等のイメージを持って行っていったほうがよいのではないかと、そういうものを伸ばすためのモデルを作りたい、となった。
- ・今年度は、配布資料「第1回運営推進委員会」の23～26Pにある「【1】まず、自分のことを知りましょう」を各大学で行っていただき、その結果をもとにしながら今後の指導を検討していきたい。各大学で行っていただく場合の数は特に決めていない。紙ベースなので自宅に持ち帰って行うことができ、授業をつぶさなくてよいので、なるべく年内に各大学で実施していただきたい。
- ・リアセックのPROG（コンピテンシーとリテラシーの2側面で学生のジェネリックスキルを測る）を、参加大学のなかで希望を募って行ってみたい。予算の限りがあるので調整をしながら行う。
- ・上記の実施内容や結果のファイルはMoodleに順次アップする。どのようにまとめていくのかは、今後検討する。
- ・学習観について、各大学で取られているアンケートや定義などがあれば、開示できる範囲で共有Moodleにアップしていただきたい。12月に、まとめて報告をしたい。

4. 第1回運営評議会・第2回運営推進委員会について

次回は、12月8日（土）千歳科学技術大学にて開催を予定。

10時～14時30分	運営推進委員会	
15時～17時	運営評議会	
17時30分～19時30分	情報交換会	詳細は追ってご連絡。

*委員会前後の（金）（日）の時間が必要なWGは、会場をおさえることが可能であるので別途連絡をお願いしたい。

*評議会で議論していただく項目として、「到達度テストの結果の共有レベル」を予定している。については、配布資料「第1回運営推進委員会」（32P）の調整事項「到達度テストの結果の共有レベル」（事務局の叩き台案）を持ち帰りいただき、学長レベルでの検討、学内調整等を行っていただきたい。なお、当日に向けた原案作りのため、事前に、学内の状況（雰囲気）を事務局までご連絡いただきたい。

5. 2013(平成 25)年度事業計画について

次回、12月の運営推進委員会では、来年度の具体的な予算イメージをつかんでいく予定である。来年度は、到達度テストをしっかりとものにしつつ、かつ、1年生が動き始めるなか学習教材の用意・実証を行い、また、ポートフォリオの運用・評価の試行が始まる予定である。つきましては、WGごとの予算イメージを次回の会議までにご検討いただきたくお願い申し上げます。

6. その他

- ・12月の運営評議会を取り交わす共同事業実施契約について、文案を事務局で作成する予定である。ご確認、ご協力をなにとぞよろしくお願いしたい。
- ・メーリングリスト（全体、科目別、事務担当者等）は今後整備予定である。

以 上